

MRI造影検査の説明書・同意書

【 造影剤とは 】

造影剤注射後に検査をすると、血管や腫瘍など血流の豊富な組織が見やすくなり正確な診断につながります。使用する造影剤の量や種類は、体重・検査部位や目的に応じて決められます。

造影剤は、たいていの場合副作用はありませんが、人によっては下記に示すようなアレルギー等の副作用が出現する可能性があります。

【 造影剤の副作用 】

- ・ 軽微:かゆみ、発疹、吐き気、嘔吐、頭痛、めまい、血圧上昇など。 頻度:1%以下
- ・ 重篤:意識消失、血圧低下、呼吸困難など。 頻度:0.0025～0.0052%
- ・ 死亡:他の通常の薬剤と同じように10万人～40万人に1人の割合で死亡の報告があります。
- ・ 遅発性副作用:検査終了後1時間から数日後に蕁麻疹、かゆみ、むくみ、吐き気、頭痛などの症状が現れることがあります、一般に症状が軽く、治療を必要とするものは少ないとされています。
頻度:約0.4%
- ・ 腎性全身性線維症(NSF):頻度はかなり低いと考えられますが、重篤な腎障害のある人はNSF(皮膚の腫脹や硬化、関節の拘縮)のリスクが高いことが報告されています。最近の血液データがない場合、腎機能チェックのため採血をさせていただく場合があります。
- ・ SPIO検査 : MRIでは基本的にガドリニウム造影剤が使用されますが、重篤な腎障害のある人で、肝臓の検査をおこなう場合、SPIO(超常磁性酸化鉄)を使用する場合があります。鉄過敏症の人は検査できません。

現在、副作用の発生を予測する確実な方法はありません。過去に造影剤を使用した検査で副作用がおきなかつた人にも、重篤な副作用がおきる可能性があります。喘息などのアレルギー体质の人、造影剤の副作用を経験した人は、通常より高い確率で副作用がおきると報告されており、造影剤の使用について慎重に検討いたします。

【 副作用出現時の処置 】

症状が軽微の場合すぐに消失した場合は経過観察します。重篤化した場合は、処置や注射、入院治療を要することもあります。

なお検査の際には十分注意し、副作用が出現した場合には迅速かつ最善の処置を行います。

【 造影剤の血管外漏出(注射もれ) 】

注射針を注射して血が戻るのを確認してから造影剤を注入していますが、血管外漏出(注射もれ)が起こる事があります。造影MRI検査時の血管外漏出の頻度は0.05～0.06%と報告されています。注入時に痛みが強くなってきたら速やかに検査担当者に伝えてください。

・血管外漏出時の症状：血管外漏出が起こって始めの数日は腫脹(腫れ)が大きくなりますが、ほとんどの場合時間と共に改善します。疼痛、腫脹、水疱などのほか非常にまれですが重篤例では潰瘍の形成やコンパートメント症候群(組織、血管、神経の壊死や機能障害)などが報告されています。

・血管外漏出時の処置：漏出のみられた四肢を拳上します。疼痛・腫脹の緩和のため冷やしたり消炎鎮痛剤の内服をする事があります。皮膚障害の軽減のためステロイド剤の外用や注射をする事があります。重篤化した場合は、処置や入院治療、皮膚科の受診を要する事もあります。

以上、了解された方は同意書にご署名の上、ご提出ください。

同意を頂けない場合は、造影剤を用いない検査方法を検討いたします。

同意された場合も、いつでも撤回することができます。

令和 年 月 日

依頼施設名 _____ 説明医師 _____ 印 _____

山鹿市民医療センター 院長 殿

私は、MRI造影検査を受けるにあたり、検査の目的や方法、起きたる副作用について十分理解した上で、上記、造影検査を受けることに同意しました。

令和 年 月 日

患者署名 _____

代理人署名 _____ 続柄 ()